令和4年度 多摩市立聖ヶ丘中学校 学校評価書(最終)

学校教育目標
人権尊重を基調とし、健康で人間として調和のとれた個性豊かな生徒を育成する。 ○ 心身ともに健康で実践力のある生徒 ○ 深く考え進んで学ぶ生徒 ○ 人や物・自然を大切にする生徒
目指す学校像（学校経営ビジョン）
・生徒にとって行きたい学校 （学習意欲が沸き、自他を認め合い、いじめがなく、感動的な体験ができる学校） ・保護者にとって通わせたい学校 （安全・安心で生きる力が育まれる学校、信頼できる教職員のいる学校） ・地域にとって信頼できる学校 （情報が適切に発信され、地域の願いや教育力を活かせる学校） ・教職員にとって充実感のある学校（生徒や保護者・地域との信頼関係があり、努力や取組の成果を感じられる学校）

目指す子供像	目指す教師像
・自他を尊重し、思いやりの心をもち、より良い人間関係を築ける生徒 ・社会の一員としてしっかりとした規範意識と向上心を持つ生徒 ・課題意識をもち、学習活動・特別活動・部活動などに主体的・協働的に取り組める生徒 ・常に健康・安全・体力の向上に努め、将来にわたって心身共に健康な生活を送れる生徒	・教育に対する熱意と使命感を持ち、向上心と適応力のある教師 ・豊かな人間性と思いやりのある教師 ・生徒の良さや可能性を引き出し伸ばすことができる教師 ・組織人としての責任感、強調性を有し、互いに高め合う教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1)確かな学力の育成

重点目標	ESDの視点を踏まえた教育課程の編成と適正な実施、満点体験や適正な評価等による学習意欲の向上、地域の教育力も活用した英語力の向上			
評価項目 （目標とする成果・指標 %）	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
SDGsとの関連やねらい明確にした授業、1単元1回以上のICTを活用した授業、補習等により、授業がわかると感じる生徒は90%以上になる。	4	SDGsとの関連やねらいを明確にした授業、1単元1回以上のICTを活用した授業は概ね実施。授業がわかる生徒は87.5%。	A	英語力の向上のためには小中の連携があるとよい。また、平均以下の生徒の底上げや日本語力の教科も課題。 グループ学習を基礎にした自己学習力を高めてほしい。 未来塾への期待も大きいのでそれに応える体制にしていく必要を感じる。 英語力の向上については、授業の工夫や改善についての評価を入れてほしい。
基礎学力と自己肯定感の向上のため、全教科で全生徒に各学期1回以上の満点(目標達成)を体験させる。	3	1学期・2学期には概ね目標を達成したが、3学期は、8割以下にとどまる教科もあったので、次年度は全教科の達成を目指す。	A	
英語力の向上のため、英語による校内掲示、英語ビブリオバトル、未来塾による英会話や英検対策等により、3年生の英検3級50%以上を目指す。	3	英語による校内掲示、英語ビブリオバトル(3年)、未来塾による英会話や英検対策実施。3年生の英検3級44%(1学期)	B	
評価のまとめ	SDGs との関連やねらい明確にした授業、ICTを活用した授業等により、学習意欲の向上も見られた。また、目標を設定し主体的に取り組ませることや満点体験などにより、基礎学力や自己肯定感の向上に効果的であった。次年度も英語科の授業では、デジタル教科書の活用、英語による指導、英語を使ったグループ活動をさらに多く設定し、一層の英語力の向上を図る。			

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

(2)豊かな心の育成

重点目標	ESD の視点も踏まえた道徳教育の推進、生徒の心に寄り添う生活指導、生徒の主体性の尊重、いじめの防止、特別支援教育の充実、不登校生徒の支援			
評価項目 （目標とする成果・指標 %）	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
道徳科の授業等で、生命や人権尊重、SDGs に関連する道徳的な課題を、1年間を通じて重点的に取り扱う。	4	年間指導計画のほかに、道徳科と各教科やESDカレンダーを踏まえた別葉)作成し生命尊重、公平公正などを重点的に指導。	A	道徳の授業はとても充実している。SDGsは日常生活の見直しからの気づきを生かした指導も大切。 気持ちに寄り添ってくれる教師がいることは生徒にとって心強い。いじめは、安心できない生徒をいかになくすかが課題。生徒の安心感につながる他の取組とその評価も知りたい。
毎月のいじめ対策委員会や継続的組織的取組により、90%以上の生徒が安心な学校と感じられる。	4	いじめの発生に、迅速かつ組織的に対応し、数件の調査中。安心できるとした生徒は全体の93.6%(前回比-0.2)	A	
特別活動や行事等を通じて生徒に自信を持たせ、自己の良い面を認識できる生徒を 80%以上にする。	4	2月現在、自己の良い面を認識できた生徒は昨年末より 3.0 ポイント増の 76.9%であった。	B	
評価のまとめ	生徒にとって、安心できる学校にするためには、道徳教育の充実が特に大切でありの、その要である道徳科の時間の充実に全校で取り組んでいる。それに加えて、個々のニーズに応えるための特別支援教育の充実、担任や SC による生徒や保護者の個別の面談等により、一人一人の心に寄り添う指導も組織的、継続的に行ってきた。さらに、生徒主体の学校行事や生徒会活動、部活動の充実など、1人1人の生徒が活躍できる場面を多く設定し、達成感を持たせることで、自己肯定感を高まり、自他を尊重できる生徒が育まれ、いじめ防止にもつながっている。			

(3)健やかな体の育成

重点目標	ESDの視点を踏まえた健康教育、オリパラ教育レガシーアワード校としての他校や関連機関と連携した取組の推進、外部人材を活用した健康安全教育の推進			
評価項目 （目標とする成果・指標 %）	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
新型ｺﾛﾅｳｨﾙｽ対応や、健康・安全教育を通じて、病気やけが、事故防止に努め、喫煙・薬物使用、重大事故、交通事故ゼロを目指す。	4	感染症防止対策を継続しつつ教育活動を実施。安全指導も予定通り実施。現在、重大事故、交通事故は0件。	A	健康についての知識を知る一歩、体力と心の成長を自分自身が感じ取ることが大切。桜の丘学園との交流は、コロナ禍でもできること少しずつ実践できているので、それを通じて、何を得たのかが大事である。
レガシーアワード校として、パラスポーツ選手の講演や多摩桜の丘学園との交流(年3回)等を通して障害者理解やﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ精神の向上に努める。	3	桜の丘学園教員による出前授業、生徒同士のｵﾝﾗｲﾝ交流会やボッチャ交流、マラソン大会も実施。	A	

授業や行事、部活動等を通じて、体力の向上を図り、体力テスト等で自己の目標値に達することができる生徒が90%以上になる。	4	5分間走の継続等により、やマラソン大会後は84.5%(前回比+6.5%)の生徒が体力テスト等で自己目標に到達している。	A	部活動がさらに活発になるように地域のサポートも増やせるように考えたい。
評価のまとめ	感染症防止対策の継続等により、生徒の健康安全への意識が高まり、コロナによる学級閉鎖も1クラスのみであった。体育祭や合唱祭等の学校行事も従来に近い形で実施できた。桜の丘学園との交流も3年ぶりに対面で行い、生徒の障害者理解に大きな成果があった。また、5分間走の継続や目標を持たせて取り組ませる指導により、生徒の体力向上が図られ、その結果が体力テストにも反映された。			

（4）家庭や地域との連携

重点目標	コミュニティスクールとして、学校関係者への公開と情報発信の推進、ESDの視点を踏まえた家庭・地域・関係機関との連携、特別支援学校や小学校との連携			
評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
年３回以上の関係者への授業等の公開、HP、学校便り、PTAメール等、適切に情報発信する。	4	限定的ながら、学校関係者への授業公開ができた。その他、情報発信は、適宜行えた。	A	コロナ禍でも少しずつ再開できた意義は大きい。地域における学校間の交流は、児童生徒にとってとても安心につながる取組である。また、地域行事を通しての住民との関わりや情報発信も貴重な経験になる。地域協働本部から地域へ情報発信できるように考えたい。
運営協議会を年３回開催し、地域学校協働本部や青少協、PTA等と連携した活動を推進する。	4	２学期以降、未来塾や英会話、スポーツ大会参加など、地域と連携した活動を再開継続。学校運営協議会も２回開催。	A	
小学校や特別支援学校との連携のため、教員や生徒の交流の機会を毎学期設ける。	4	教員の小中交流会、９月に小学生の中学校体験を生徒会主催で実施。	A	
評価のまとめ	コミュニティスクールとして、コロナ禍での限定的な活動ではあったが、地域協働本部の方々の献身的な支援や関係各校、PTA等との連携・協力により、生徒に地域とのかかわりやSDGsを意識した活動に取り組ませることができた。次年度は、地域や関係機関との連携を一層深め、より発展的に取り組んでいきたい。			

２ 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

５月以降、新型コロナウイルス感染症が５類に引き下げられると仮定し、生徒・保護者・学校運営協議会・教職員の評価を踏まえ、学習指導要領及び市の教育ビジョンに沿って、次年度の教育課程を編成する。その際、下記の点を指導の重点とし、様々な教育活動の見直しや改善を図りながら学校運営に取り組む。
〔令和５年度の指導の重点〕
○ＳＤＧｓを踏まえたＥＳＤの推進と道徳教育の充実を柱としたカリキュラムマネジメント
○生命・人権尊重教育の推進、いじめの対応と防止、不登校対応等の特別支援教育の充実(安心できる学校)
○コミュニティ-スクールとして、地域と連携した教育活動や学校運営の推進
○行事や特別活動などの生徒主体の活動や学校運営協議会への出席など、生徒の主体性の育成。
○ICT の活用、満点体験、英語スキルパワーアップ大作戦の推進等により、学力向上とともに、コミュニケーション力、望ましい自尊感情・自己肯定感・自己有用感を育む。
○働き方改革の推進

以上のとおり報告いたします。

令和５年 ２月 16 日
多摩市立聖ヶ丘中学校 校長　麻 生 隆 久

公印

令和4年度　学校評価書

多摩市立聖ヶ丘中学校